

# 会 議 要 旨 書

会議名	第5回国立天文台周辺地域土地利用整備計画検討委員会
日時	令和7年12月22日(月)午後6時30分～7時53分
場所	大沢コミュニティ・センター3階 多目的室
出席委員 (20人)	野上和裕・生江幸子・岩田洋子・菅沼将晴・石崎明・小倉淳・大前良弘・上條梨恵・藤橋初美・倉田清子・海老澤一晃・蔵野貴通・高橋奨・青木睦・間部豊・濱野周泰・寺林晋也・福地久美子・榛澤健司・盛田羽菜
行政職員 (11人)	国立天文台周辺地区まちづくり推進本部 本部長 松永透、副本部長 久野暢彦 国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局 事務局長 高松真也、理事 齊藤大輔・山中俊介、次長 野崎昭博・越政樹、主査 山内健二・永田五月・安本正義、主任 丸岡裕己
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	13人
<p>「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき会議の公開、傍聴入場、会議録の作成についての説明</p> <p><b>1 三鷹市挨拶（国立天文台周辺地区まちづくり推進本部 本部長、副本部長）</b></p> <p>「『新都市再生ビジョンに係る施策・事業の緊急対応方針』への対応について」説明</p> <p><b>【松永本部長 挨拶】</b></p> <p>市では、11月14日に昨今の物価高騰や人材不足といった社会経済情勢を踏まえた「新都市再生ビジョンに係る施策・事業の緊急対応方針」をまとめた。</p> <p>同方針では、国立天文台周辺まちづくりを含む優先プロジェクトについて、整備の全体像を想定しつつも、必要最小限の整備内容を厳選するとともに時期を慎重に検討し、現在の社会経済情勢の中で実現可能なプランへと転換すること、また、その後の整備等については、市民ニーズや財政状況等を勘案し、段階的な整備等を検討することとしている。</p> <p>これまで、この検討委員会でのご意見を踏まえながら土地利用整備計画の検討を進め、この12月にはその案をお示しする予定であったが、この緊急対応方針を踏まえて、今後、内容の見直しを進めていく必要があり、この整備計画の策定スケジュール等についても見直しを検討することとなった。</p> <p>緊急対応方針においても、「整備の全体像を想定しつつ」とされており、天文台北側敷地を活用して義務教育学校、地域のコモンズを整備していく方針に変更はない。現時点で中止や凍結は考えておらず、今後のスケジュール等の見直しを検討することとしているものであり、この検討委員会でのご意見については、土地利用整備計画策定にしっかりと活かしていきたいと考えている。</p> <p>具体的な進め方や、今後のスケジュール等は、これから市全体の財政状況等も踏まえて、検討していくことになるが、検討委員会でのご議論・ご提案内容については、しっかりと市として受け止め、検討する時間をいただきたいと考えている。改めて、途中経過等を含めて、ご報告の場を設けるようにしたいと考えているので、引き続きご協力をお願いしたい。</p>	

### 【久野副本部長 挨拶】

昨今の社会経済情勢は非常に厳しいものとなっており、公共工事は、不調や不落が続いている現状がある。

そういった状況のなかで、天文台のまちづくりだけではなく、全ての公共事業について、どういう形で今後のまちづくり、公共事業を進めていくか頭を悩ませている。また、皆さんでご議論いただいた内容を、どのように活かし、どのように進めていくか、答えが見えない状況であるため、最適な方法や内容を検討する時間をいただきたい。

## 2 前回のワークショップの振り返りについて

### 3 検討委員会のとりまとめ（案）について

事務局より資料に基づいて説明

### （質疑応答（新都市再生ビジョンに係る施策・事業の緊急対応方針の内容含む））

【委員】検討の見直しということだが、どのくらい後ろ倒しになるのか、あまり変わらないのか規模感を教えてほしい。

【事務局】緊急対応方針は、整備の全体像を想定しつつも、実現可能なプランへと転換することを検討することとしている。今回この方針が出されたので、これからどう進めていくのかを検討するお時間をいただきたい。現段階では、期間も含めて、これから検討をする。

【委員】スケジュール等の見直しを図るとのことだが、大沢地域の坂下について、防災面のことを考えてきた。緊急対応方針の結果、防災面はどのようになるのか教えてほしい。

【事務局】防災上の課題にも対応するという考え方は、今後も変わりはない。この計画自体先の話であるため、現時点でできることとして、「風水害時における野川周辺の防災対策方針」の策定を進めている。この方針では、避難ができる場所の拡充や、台風など予測ができる大雨の際、避難指示前の高齢者等避難の段階で、避難バスの運行をすることなどを盛り込んでおり、年明けには広報みたかで周知を図りたいと考えている。整備計画にて将来像を示し、直近では防災対策方針による対応を今後も進めていきたいと考えている。

【委員】第4回を欠席したため、わからないので教えて欲しい。第4回検討委員会のまとめ「配置案の考え方（案）」は、検討委員会内の議論を踏まえて、委員会として出したものなのか、検討結果を基に事務局としてまとめた案なのか。

【事務局】皆さんで出していただいた意見を基に、事務局でまとめたものである。

## 4 グループワーク

ワークシート「検討委員会に参加した感想や今後の期待」について、A・B・C・D班の4班に分かれて、各自記入後、グループワークを実施

### 【A班の発表】

今後スケジュールを考えていくなかで、何年か待って、全部一度にオープンという方法は目指さないで、防災は置いておけない課題であるため、先に防災用に土地を嵩上げするなど、段階的に行っていくという話が出た。

西部図書館について、天文台への移転の話が出ない場合でも、建て替えの時期があると思

うので、その時期までは、引っ越さない方法も考えられる。

時期を見直しても予算が増えるわけではないと思うので、予算縮小された場合に何を優先的に作っていくかを現実的に考えていく必要があります、その時には学校を優先してほしいと思う。学校も時期が延期となった場合、延期の期間にもよるが、その時の学校に必要なことは変わってくると思う。義務教育学校の方針についても、延期の期間により変わると思うので、その時の情勢に合わせた設計をしてほしいと思う。

今回コモンズの部分を主に話していたかと思うが、全部の夢を盛り込んでも、難しい部分もあるので、そこをコンパクトにしていく。コンパクトにする方法として、機能転換があげられる。一つの部屋を用途によって使い分けること、子どもが減少し、使わない教室が出てきた場合にコモンズで使う部屋にするなど、可変化できる設計で考える。無理してプールを作らず、他の地域でも学校のプール維持が難しいということで、民営のスクールに子どもたちが行って習うというニュースも見るので、色々な方法を考えたら良いと思う。

#### 【B班の発表】

4回の検討委員会でしっかりと話し合いができたと思う。子どもたちのことや自然との共存について、よく考える機会となった。また、その考え方や思いなどを共有できたと思っている。それぞれよくまとまり、大切なコンセプトやポイント、3案に最後まとめたが、それぞれに良い点があったと感じている。

今後のスケジュールは不明だが、しっかりと今回の想いを大切に、時間がかかっても良い学校、後で作り直す必要がない学校、自然との共存ができる学校など、他のモデルとなる学校を目指してほしい。

防災、学校など、現段階でできることもあると思うので、必要なことに順位をつけてることから取り組んでいってほしい。今後も学校づくりに関しては、状況を見ながら、急がずにしっかりと進めてほしい。

#### 【C班の発表】

緊急対応方針の話を受けて、不安な点が何点かある。ハザードマップで浸水想定区域にお住まいの方について、現時点でどうしていくのかという点、学校ができるまでの天文台の土地はどうなるのかという点、子ども、高齢者の居場所となる予定だったと思うが、その居場所はどうかという点が不安な点となる。

来年度の羽沢小の新1年生は、1クラスと見込まれているといったところを考えると、大沢台小と羽沢小が1つになる前に、問題の状況が来るのではないかと心配がある。

新しい施設ができるまでの過程で話し合うことも大事だが、できてからの運営をどう続けていくかということも、せっかく地域の人たちの話し合いの場ができたので、この先10年、20年後も意見を出し合えるような関係を続けていけたらと思う。

図書館について、子どもたちが学ぶ場、地域、大人たちまで学ぶ・遊ぶ・集う場を作ってほしい。

財政面で現実可能なプランへと転換していくと思うが、根幹にあるのは学校だと思うので、プラス要素であるカフェテラスなどは無くても良いという意見もある。天文台のなかにある学校はすごく夢がある。聞いたときにワクワクしたので、学校だけは素晴らしく誇れるものにしてほしいという思いがある。

#### 【D班の発表】

全体的に地域愛を感じて、非常に地域のことを考えている人たちの集まりだったという話

になった。皆さん、大沢地域全体のことを考えており、天文台の敷地だけではなく、大沢全体のこともこの場でもう少し話したかったという意見も出た。例えば、天文台に生徒が移った時のコミュニティ・センターを風水害にも対応した改修まで考えてほしい、通学路は現状でも暗い道のなか通学している生徒がいるので、通学路の確保だけでも先に進められないかというような議論をしても良いという話も出た。自転車と歩行者の分離や、無人トラムのようなものなどで、安全に通学できるような環境も考えていただければと思う。

全部の意見がまとまらないうと動き出せないとなると、時期が遅れてしまうので、優先順位をつけて、緊急度の高いもの、安全・安心に関わるものから順次進めていくやり方をしてほしい。また、いろいろな施設や、いろいろな人材が多くあるので、しっかりと人材活用できるまちづくりをしてもらえたらという意見も出た。これから人口が少なくなっていくなかで、タワーマンションを建てるような計画ではなく、こういう人と人がつながれる場所を作っていこうという会議は、非常に貴重だと思うので、これからのまちづくりのモデルケースになるようなまちづくりを、これからこのメンバーで考えていければ良いという意見も出た。

#### 【委員長まとめ】

各班の意見を聞いて、学校をしっかりと見据えながら、学校を中心において計画を進めてほしいというのが一つだと思う。計画の見直しというより、時間軸の見直しだと思うが、令和15年に完成予定が延期となるのか、令和15年に実施するという判断になるのかは、市の検討結果を待つしかないが、必要なものは、まずは学校だと思う。また、大沢地域の安全が必要だと思う。よく生命、財産に関わることを優先というが、財産は別として生命が重要であるため、そのことを考えると避難できる空間が必要であると思う。

今回のスケジュール見直しにより、整備まで時間がかかると思われる。社会情勢、経済情勢がどう変わるか、実施の判断が出る前に、進捗状況に応じて、このような場を持ちながら、見直す機会ができれば良い。

#### 【松永本部長 挨拶】

全5回に渡り、色々な観点からの新しい発想や意見をいただいた。まとめて造れることが理想であるが、難しい状況もあるため、最終的な完成形をイメージし、そこに近づけていけるよう、市として努力を続けていきたい。

検討委員会でいただいたご提案については、大切に扱っていきたいと考えている。

スケジュールの見直しは図るが、この計画を途中でやめるとかではなく、どのようにしたらより良いものができるか、学校のなかでしっかりと学べ、育つという学校にするということを含めて検討を進めていきたい。

来年度になるかと思うが、途中経過を含めて報告する機会を作り、一緒に考えていただければと思う。

検討委員会にご参加いただき、様々なご意見をいただき、心から感謝申し上げます。

#### 【委員長】

最後に資料「国立天文台周辺地域土地利用整備計画検討委員会のとりまとめ(案)」の(案)を取り、計画策定に向けて進めさせていただく。